

平成30年度 川辺小の教育

(1) 教育目標 「たくましく 心豊かに生きる子」

(2) 育てたい児童

◇進んで学び考える子（ 知育 ）

→基礎的な知識・技能を身につけ、意欲的に学び考えることができる子

◇思いやりのあるやさしい子（ 徳育 ）

→他とのかかわりの中で、豊かな人間性を発揮できる子

◇元気でねばり強い子（ 体育 ）

→自主的に健康づくり、体力づくりができる子

児童のことを第一に考え、全教職員の叡智を結集して、生き生きとした魅力ある学校づくりをめざし、地域社会の信頼に応える公教育を実践する。

(3) 目指す学校像

川辺小の合言葉「3つのいっぱい、3つのゼロ、そして、あそぼう」

- ・知恵いっぱい（読書）
- ・笑顔いっぱい（前向きに）
- ・元気いっぱい（外遊び）
- ・いじめゼロ
- ・好き嫌いゼロ
- ・忘れ物ゼロ
- ・あそぼう … あ・あいさつ そ・そうじ ぼう・事故防止

(4) 目指す教師像

- 「チーム川辺」の意識で誠意と協力、努力を惜しまず、研究に専念し、常に学び続ける教師
- 一人一人の児童のよさに気づき、それを認め、児童と共に歩む教師
- 保護者と地域の目線を自分のものとし、保護者・地域と共に児童を育てる教師
- 短時間で働くスキルを身につけ、自他のワーク・ライフバランスに取り組む教師

(5) 学校経営の方針

「 笑顔いっぱいの学校づくりと教職員のワーク・ライフバランスの両立 」をする。

- 現行及び次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、「生きる力」のある児童の育成を目指した教育課程を編成、着実に実践、評価し、保・幼、小、中、高の連携を強化し、教育目標を具現する。
- 一人一人の児童を大切に、全ての児童が存在感のもてる学級、学年、学校経営をする。
- 安全・安心で潤いのある美しい学校環境づくりをし、心と身体の健康を保持・増進する。
- 家庭や地域社会と情報やめあてを共有し、学校・家庭・地域3者の信頼関係を深め、歴史と伝統を生かしつつ「攻めと連携」による川辺小学校の教育を実現する。
- 教育者としての使命感と矜持を保持し、サービスの厳正と「チーム川辺」の意識で職務にあたる。
- 学校の職務を見直し、働き方改革を通じてワーク・ライフバランスに積極的に取り組む。

【本年度の努力事項】

- ① 確かな学力につながる学習指導の充実
 - 基礎的・基本的な知識・技能や思考力、判断力、表現力を確実に身につける学習指導を積極的に展開すると共に、学習意欲の向上を図る工夫をする。
 - 体験的な学習や習熟の程度に応じた指導、個に応じた指導など、学習指導を一層工夫する。
 - 算数指導における基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、これまでの研修の成果を生かし、拡大し、各教科・領域での豊かな言語力・表現力を身につけさせる。
 - 飯沼中学校、中野小学校との学力面（算数・数学）・体力面（走力・持久力）・生活面（生活のきまり）・安全面（防災教育）等々、各方面での小・中連携を具体化する。

- ② 学校課題研修「算数科」・・・春日部市教育委員会委嘱「国語教育」モデル校
研究テーマ 「基礎・基本の確実な定着を目指す指導法の研究（算数科）」
～表現力を育て、学びを深める指導の工夫～
 - ※ これまでの国語研究の成果を生かし、言語活動や表現力の育成を各教科へ拡大するとともに、算数科の基礎的・基本的な知識・技能を着実に定着させる。

- ③ 豊かな人間性を培う指導の充実
 - ・すべての教育活動を通して「豊かな心」や「規律ある態度」などの道徳的心情や道徳的实践力を育てる。
 - ・「規律ある態度」「3つの達成目標」の具現化、特に「けじめのある生活」「礼儀正しい生活」「きまりを守る生活」を徹底する。
 - ・基本的生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん、あいさつ、返事等）を育成する。
 - ・自律心（廊下歩行、けじめのある授業、正しい言葉づかい等）、協調心（友達をつくる、仲よくする、共に働く）、思いやりのあるやさしい心（人のためになる喜び、学校を美しく保つ等）の育成をする。
 - ・小・中連携を推進し、飯沼中学校、中野小学校と具体的に共通理解・共通行動をする。

- ④ 体力向上と健康・安全教育の充実
 - ・生命の大切さを知り、心身の健康の維持・増進を図り、実践するための態度や能力を育成する。
 - ・飯沼中学校、中野小学校との連携を強化すると共に、家庭・地域と共に「実践的防災教育」を一層進める。
 - ・「おは走」「なわとび」「持久走」「保健・体育授業の充実」「外遊び」等を通して体力向上を進め、健康でたくましく、がまん強い「心」と「体」をつくろうとする意欲や態度を育てる。
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」「むし歯ゼロとむし歯の治療率向上」を啓発する。

- ⑤ 特別支援教育の充実
 - ・通常の学級に在籍する配慮を要する児童への対応を組織的に行い、中学校へつなぐことを通して小・中連携を進める。
 - ・「保護者と共に進めていく特別支援教育」という意識を持って、その子の成長にとって何が一番よいことかを見据え、「今」を追求しつつ、最終的には「独立」「自立」を目指す。
 - ・専門機関との連携を密にし、春日部特別支援学校、宮代特別支援学校、市教育相談センター、福祉課、子育て支援課等との連携を通して児童一人一人のニーズに応じた支援を充実する。

- ⑥ 学校の信頼は教職員の活躍
 - ・教職員事故ゼロを徹底し、正常な教育活動を維持し、目に見える成果をあげる。
 - ・教職員の健康保持とワーク・ライフバランスの実現により、生き生きと仕事をする。